

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 6年 3月 20日

事業所名 てらびあぼけっと鳩ヶ谷教室

保護者等数(児童数)23名 回収数 21件 割合 95%

	チェック項目	回答状況				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	20件	1件	0件	0件	個別に適切に対応いただいていると思います。 いつもきれいに片付けていて十分なスペースがあると思います 応ずぎず目の届く距離で子供がのびのびと活動していると思う。 子供たちが興味を強くおもちやをたくさん置きつつ、動き回れるスペースも作れていると思うから 保護者から見える範囲では、適切なスペースが確保されていると思います。 充分かと思われます。 床には無駄なものがないく、棚にきちんと整理整頓されている。	引き続きお子様の活動スペースの安全を第一に、且つお子様の発達状況に合わせたスペース作りを都度行なってまいります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	20件	1件	0件	0件	・少人数で手厚く子供を見てくれていると思います ・丁寧にサポートいただいていると思います ・言語聴覚士の方が常在では無いが本館の方からプログラムなど考えていただきありがとうございます。 ・子供たちと話し、先生方が付くように配慮していると思った。 ・先生の人数は多いと思います。専門性は先生により差があるように感じます。 ・人数も多すぎず少なすぎずで、ちょうど良いです。 ・長男が頼り手になりつつある中で、職員の方の配慮や量の高さを感じます。 ・マンツーマンでやっていると、さらに帰りの際には、担当の方からフィードバックももらっている時などちゃんと子供を見てくれる人もいるため、安心です。	段位のあるABAセラピー研修受け、合格したセラピストがセラピーに入ります。また、引き続き個人差がないよう、本部との連携もお願いしながら、職員全体で自己研鑽に励みスキルアップへと繋げていきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	19件	1件	0件	1件	・特に問題ないと思います ・色分けまでは見た記憶がないですが段差はなくて過ごしやすいと思います。 ・個室も動物の糞が貼って子供もわかりやすい。 ・子供たちが遊ばないよう工夫ができていたと思った ・靴の脱ぎ履きのところに段差がないのはありがたいです。 ・ただ、まだその違いがわからないようそのまま入室してしまうことありましたが、お声を聞いています。 ・色分けや掲示物等でも分かりやすくしてあると思います。 ・障害児は丁寧な対応をお願いします。 ・室内がフラット状態なので安心です。 ・靴を脱ぎ履きする場所の区切りは問題ないと思いますが、外で利用していたベビーカーを室内(活動する場)まで入れる事は気にしました。	室内へのベビーカー入室について、ご意見いただきありがとうございます。スペースにシヤーマット等をおくなどの配慮を行い、環境設定の改善に努めてまいります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	19件	1件	0件	1件		
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	20件	0件	0件	1件	・丁寧にサポートいただいていると思います。 ・まだ遠い始めてから数ヶ月なので子に合っているかはよくわかりませんが、毎週お迎えの時に詳しくその日の内容を教えてくれていて良いと思います。 ・園や医療機関の話も聞いて作成してくれている。 ・その子に合わせた支援活動ができていたと思った ・発語が遅れている為、それに繋がるように身体活動の動きや色んな刺激を与えて、それに繋がるように促している。	児童発達支援計画の作成においては、職員間で話し合いの場を設け、また、お子様や保護者のニーズに沿った課題達成に向けて作成してまいります。引き続き、園や併設されている施設等の話を伺いながら計画に取り入れてまいります。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	18件	1件	0件	2件	・特記事項はありません。 ・細かいアレンジをした上で、目標に繋がるようにカリキュラムが組まれている	児童発達支援ガイドラインに沿った内容で支援計画書の作成をさせて頂いております。保護者の資料として児童発達支援ガイドライン「児童発達支援の提供すべき支援」等の冊子を保護者様がいつでも閲覧出来るよう配慮させて頂きました。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	20件	0件	0件	1件	・送迎時内容について詳しくお話ししており、何にフォーカスして進められるかわかりやすいと思います。	児童発達支援計画に沿って支援を行っております。また、カリキュラムの内容等、送迎の際、保護者様に分かりやすくフィードバックさせて頂いております。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	18件	2件	0件	1件	・一時期は同じ内容が続いている感じがしましたが、最近は感覚統合などのプログラムも取り入れていただいているのだからと、連絡帳のみならず、様々なプログラムを実施しているとうかがえます ・毎回違うプログラムを組んでくれている。 ・季節は同じ内容が続いている印象がありますが、最近はいろいろなことを取り入れて下さっているように感じます。	児童発達支援計画の進め方等、より分かりやすくご意見を伺い、同じプログラムでもお子様が楽しく、興味をもってもらえる構成で引き続き取り組んでまいります。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもとも活動する機会があるか	11件	2件	6件	2件	・別途保育園に通っているのこちらでは少人数クラスで良いと思っています。 ・小集団では違う年齢の子と関わる事が出来るので、いいと思います。	現在、他の園様との交流の機会はありませんが、リズムワークやサーキットといった小集団のプログラムで通所されている年齢や違う園の子と関わる機会をつくっております。
	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21件	0件	0件	0件		ご契約の際にご説明させて頂いております。
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	20件	1件	0件	0件	・開始してまだ一年未満ですが一度面談をして児童発達支援計画の再設定がなされました。 ・面談を行い、詳しくご説明しました。	児童発達支援計画や活動プログラム等、ガイドラインに基づき作成しておりますが、支援内容とガイドラインとの紐付け、ねらいをより分かりやすく保護者様に伝えようという努力をしております。
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)が行われているか	10件	4件	6件	1件	・ペアレントトレーニングはありませんが、幼稚園に様子を見に行っている。	現在は行っていませんが、代替するものとして普段ご利用されている園や施設の子供個別に必要に応じてホームセラピーを提案しております。ペアレントトレーニングに関しては今後のニーズに応じて対応してまいります。
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	19件	2件	0件	0件	・日々の様子は直接話すことが多いので伝えられていますが、セラピーノートのピンクのページを確認して頂くというのと同じように、内容や時間的にすぐに返答出来なくても、迎えの時に見ても良かったことがわかる一着が欲しいです。 ・送迎時や連絡帳にてお伝えした内容をよく覚えていてくださったり、情報の共有が行われている印象があります。 ・先生が変わっても発達状況に関して情報共有されている感じがしています。	ご意見頂きありがとうございます。 送迎時のフィードバックの際など、保護者様からのお話も踏まえ、教室との共通認識を持ってよう努めてまいります。
保護者への説明等	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	20件	1件	0件	0件		6ヶ月毎のモニタリング、面談の他にもご相談を頂いたり、こちらから支援についての共有事項等がございます際には十分な時間を設けてお伝えさせて頂いております。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	5件	4件	10件	2件	・保護者会は不要と考えている。開催されたとしても、おそらく不参加とする見込み。 ・保護者同士の連携は特に望んでいないため	現在行っていませんがご要望がございました際にはオンライン実施等も含めてご検討させて頂きます。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているか。また、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	19件	2件	0件	0件	・まだ利用したことがないので不明です。 ・頼りになると思います。	頂いたご相談や申入れに対しては保護者様に安心して頂けるよう迅速にご対応させて頂く事を心掛けております。また、当教室ではお電話のみならず、メール、公式LINEアカウントの設置によって時間帯を選ばずご連絡頂ける事で迅速に対応できる体制を構築させて頂いております。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	19件	1件	0件	1件	・通所時の様子など詳しくお聞きできています。	送迎時において、ご家庭でのお子様の様子を伺いすると共に、お子様の発達状況に合わせたコミュニケーションを密に取り、情報共有のご対応をさせて頂くように努めてまいります。
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	21件	0件	0件	0件	・思い出comの導入した写真の、デジタルデータも欲しい。 ・文書のみだと様子を想像してみるのみになります。写真サービスにて実際の段階の様子が見られるのはありがたいです。 ・写真で様子を見られるのはありがたいです。	毎月のお便りや、インスタグラム、ブログ、お写真のサービスからお子様の活動の様子をご一緒頂ける配慮をさせて頂いております。又、お写真サービスのデジタルデータにつきましては、確認次第お送りさせて頂きます。
	19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	21件	0件	0件	0件	・質問文に記載の点についてはその通りなもので良いと思っておりますが、先日他の生徒のお子さんの履き履きについて怪我を確認したような写真が写真サービスで送られてきました。撮影自体の責任は分かりませんが、写真サービスに載せるべきものではなかったのではなかったのではと心配だったので掲載前にご確認いただければいいと思います。	ご意見いただきありがとうございます。皆様にご不便な思いをおかけし誠に申し訳ございません。ご意見を真摯に受け止め、以後再発防止に努めてまいります。

非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	20件	1件	0件	0件	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルを保護者が閲覧できるのは知らなかった。 マニュアルは拝見していませんが、緊急時の避難などについては契約時に具体的な場所を含めた説明があったと記憶しています。マニュアルは拝見していませんが、避難時の説明は契約時であったと記憶しております。 	各種対応マニュアルにつきましては皆様にわかりやすく提示させて頂ける様、教室の入口付近に設置させていただきます。ご自由に閲覧して頂けますのでご利用下さいませ。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	17件	1件	0件	3件	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は以前実施の報告を受けました。年1回だと思っていたのですが、毎月あるのですか？たまたま通所日と実施日が重ならないだけでしょうか？ 	「避難訓練」の実施は年1回以上となります。又、あらゆる状況を想定した防災訓練に関してはお子様達と一緒に進んだり、職員のみで行う場合もございます。お子様が参加される際には保護者様に都度お知らせさせて頂いております。又、今後は皆様に訓練の様子をご確認いただける様、インスタグラムやブログで発信させて頂いております。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	18件	1件	0件	2件	<ul style="list-style-type: none"> 毎日行きたがる、帰るのを嫌がるほど楽しみにしています。お迎えに行く度、楽しそうに走り回っている姿を見てこちらも嬉しく思います！ 本人に聞けないのでわかりませんが、以前は通う際に泣いていましたが数ヶ月で泣かずに通えるようになり、活動は楽しんでいるようです。 毎回嫌がる事なく、楽しみに行っています。 一番最初は、平々泣きだったのですが、楽しかったのか、2回目以降は、建物の近くまで行くと、療育だというのを認識し、自分から手を引っ張りニコニコで通っています。 本人に聞けないので詳細はわかりませんが、以前のように泣くこともなく通えるようになり、楽しんでくれているのではないかと思います。 保育園より通所を楽しみにしています 	てらびあほげっつでは、個別療育が中心となりますが、習得したことを実践できる小集団の活動も取り入れていることで、児童さん同士で助け合いにより成長に繋がることが増えています。引き続き、お子様にとって安心出来て笑顔になれる場所、そして沢山の成長をお子様自身にも感じてもらえる様、我々職員一丸となって邁進してまいります。
	23	事業所の支援に満足しているか	21件	0件	0件	0件	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧にご対応いただいていると思います。子供もできることが増えており、家族一同感謝しております。ありがとうございます。 通い始めて3ヶ月ほどですと悩んでいた発音不明瞭の原因がわかりこれからはどうしたらいいのかわかったのですごく前向きになりました。まだまだ課題はあると思いますがすごく楽しみに通っているのが楽しみながら成長して欲しいと思います。 家族自線でご相談事などよく聞いてくださったり、体調の面でご心配して下さったり、支援活動とは異なった面でもよく話を聞いてくれるので満足しています。 個人のプログラムに添って、毎回違う内容でやっているのでも、子供も飽きず楽しみながら、お勉強出来ると感じます。毎回行くときも楽しみにしながら行っています。 それぞれの特徴に合わせて接してくれているので、とても安心して通わせていただいています。子供も楽しんでくれているので、これからも楽しみながら学んで成長していければと思っています。 先生方も丁寧で子供がとても楽しく通っています。また発語に対しては通所してから子供の成長が著しいです。これからもよろしくお願致します。 	ありがとうございます。嬉しいお言葉を頂戴し、職員一同励みになります。今後は皆様とお子様の成長を一緒に喜べる様に支援して参ります。宜しくお願致します。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年 3月 20日

事業所名 てらびあけつと場々教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	1	・部屋割をする際、児童が慣れている部屋や適性を考えている。 ・1クール4名の時は個室3名、ホール1名で分かれて利用している。 ・訓練室の活動スペースは良好である。個室が3部屋で利用児童が4名の場合にはホールを利用している。 ・広すぎず、狭すぎずの広さで個々の活動に集中できる適切なスペースを確保した設計にしている。 ・お子様の課題、プログラム内容に合わせてセラピーを行う部屋や、使用するタイミングなどを都度調整しており、スペースとの関係が目が届きやすい適切な環境となっている。	・今後起こりうる様々なシチュエーションを想定し、職員間で共通認識を持つ。 ・場合によっては別室に音が漏れ、セラピーに集中しづらい時がある為、プログラムによっては個室を交代するなどの工夫をしい。 ・児童によっては行動調整が必要であるため、その場の対応にならないよう事前確認や打合せを徹底する。
	2 職員の配置数は適切であるか	8	1	・セラピーの部屋割をする際、児童が慣れている活動や特性を考慮して職員の配置を行なっている。 ・お子様の特性や小集団活動の際には、集団を形成しやすいようにする為、職員を含めて人数が多くなり過ぎないように環境設定をしている。	・セザリハットへの意識、職員の立ち位置等、改めて共通認識を持つ ・人手が必要な状況の時には他職員へ声をかけ、安全面に配慮していくことを継続する。また、各職員の担当児童を把握し、必要なところでフォローに入るようにすること引き継ぎ意識していく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9	0	・他に注意が向いてしまいがちの児童の場合は、一時的に玩具をしまう。 ・教室に来てからの見通しを待てるように1日の活動の流れを写真で掲示することで見通しを立てられるように配慮した環境整備されている。 ・積置き場や荷物置き場など、その日の利用児童の名札や個室部屋は動物の絵で視覚化した環境設定をしている。 ・物にイタガキ動など、人手が必要な状況の時には他職員へ声をかけ、安全面に配慮している。	・各職員の担当を把握し、必要なところでフォローに入るように助け合う体制づくり ・汎化を見据えて、玩具があっても今や事に集中出来るよう少づつ環境を変えていく。 ・トイレの段差の改善についてはステップを利用する等の環境整備を強化していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	1	・子ども1人1人の名前付いた靴箱、ロッカーやタオル掛けを用意している。 ・消毒・清掃作業は都度こまめに正しい感染症対策を実施している。 ・個別支援用の個室も用意しているが、感覚統合など、小集団の活動で使用される比較的大きな玩具は使用する時のみ出すことで活動にあわせた空間を確保している。	・お子様の発達段階に合わせて物の配置(強化子や絵本等)を行っていき、般化していくペース作りをする。 ・よだれが出やすい児童もいるので、床にべたべたした時には安全面に配慮し、すこすこ拭ける環境整備をし、一時的に持ち手を離れる際には周りに一声かけることを徹底する。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	0	・研修を多く受け共有している。 ・ミーティングをこまめに行っている。 ・職員一人ひとりが支援に対してPDCAサイクルの目標設定をしてもらい、月に1回の管理職との1on1の機会を設け、都度フィードバックも持っている。 ・口頭での申し送りや意見交換する機会を設け、議事録の回覧や掲示を行なっている。	・職員が主体的にアイデアを出し合える環境作りを行う。 ・職員と利用児童が増えすぎること時間が足りなくなることが予想されるので、効果的な方法で1on1も進めていく必要がある。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	0	・当所では今回が最初の保護者へアンケートのお問い合わせとなりますが、できるだけ保護者に評価の質問内容が分かりやすく伝わるよう、我々が懸念している点や工夫している点をお伝えさせて頂いた上でご答え頂いた。	・今回の結果を踏まえて課題や改善すべき点に職員がどのように対応していくのか話し合い、保護者様に改善を促す。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	0	・当所では今回が最初の保護者へアンケートのお問い合わせとなりますが、毎月の会報誌やSNS、ホームページで活動内容を公開しております。また、普段の活動の様子も写真サービスを通して、ご覧頂いております。	今回のガイドラインアンケートは期限間近であったこともあり、業務が逼迫した。来年度は時間の余裕をもって、進めたい準備を行なう。また、職員にガイドラインに関する深い理解をもって頂く為ガイドラインの読み合わせも行う。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	3	・所謂外部機関による第三者評価はおこなっていないが、てらびあけつと本所の定期的な家訪や地位制度によってセラピーのスキル向上や業務改善に繋がっている。	・職員全体で共通認識を持ち互いに意見を出し合える環境作りをしていく。また、他の教室と相互に第三者評価を実施することも検討し入れる。
9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	・全職員が資質向上の為のセラピーの段位を取得する制度がある。 ・また、対外的な研修も積極的に取り入れており、支援に役立っている。 ・本所の研修は勿論、職員それぞれ自己研鑽に励み職員間で共有する機会を作り、支援方法に直結する課題をリアルタイムで共有している。 ・なるべく全職員が研修を受けられるように管理者が組んでくれている。	・全ての職員が意欲的に自己研鑽に励み共有し合える環境作りを目指す。 ・研修内容を全職員に共有する時間が足りなくなっているため、研修を受けた職員が支援に生かすよう促している。または児童の引き継ぎの時間等を通して、他職員が支援方法を学び、実践に繋げている。 ・全職員が全ての研修を同じように受講することは難しいので、研修報告書を見て、必要な研修内容を受講者にアレンジすることで双方の学びになる。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	0	・お子様、御家族様の置かれている環境の視点からの状況把握、お子様自身の発達状況のサセスメント、共に職員それぞれの見解を共有し把握していくことに注力している。 ・短期目標やお子様のニーズに沿った長期、短期目標を基本に課題としてあげ支援内容に盛り込んでいる。 ・アセスメント、保護者様の聞き取りを基に、プログラム内容を飲み込んだ支援目標を提示し、分かりやすく作成している。	・職員間の共通認識、共通理解の底上げを目指す。 ・フェイスシートの内容に変更がないかの再確認するだけでなく、情報の変化を見逃し、環境や発達段階にあわせた計画書の作成に役立ていく。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	0	・社内の標準化されたアセスメントツールを利用しているが、初回のご利用時や面談時に知能検査・発達検査や外部機関での情報なども活用している。	・職員間の共通認識、共通理解の底上げを目指す為、標準化するツールを決めていく必要があるが、特に来年度の法改正にあわせて標準化が必要と becoming。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	0	・保護者の聞き取りを基に、社内ツールを利用してガイドラインの指標を職員で話し合った結果で設定しているが、時短をする為に付箋を使って各職員の見解を収集している。	・職員間の共通認識、共通理解の底上げを目指す為には支援内容を具体的にわかりやすい言葉にしている。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0	・支援計画に基づく目を通すよう、お子様それぞれの支援データファイルに支援計画書を添付し、支援プログラム立案の際には必ず目につく場所にある事で職員全体の認識度を上げている。 ・支援に入る前や新たなプログラムを組む時に、支援計画に目を通すようになっている。	・職員一人ひとりが支援目標を意識し、児童を目標達成近づけるよう支援していく。 ・支援計画に沿った支援に結びつように、支援内容を具体的に表現し、共通認識を持つ。 ・課題の見直しを行い、難度の高い支援計画を作成することでお子様の現状に沿った支援をおこなっていく。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	9	0	・児童に合わせて感覚統合も取り入れ実施している。 ・課題を行うにあたって、児童のその日のモチベーションや課題を取り組んでいる際の様子によって課題に向き合える範囲を見極めようとしている。 ・チーム全体でプログラムの意図を共有しながら、話し合っている。支援が難しい児童のケースに関しては本部との連携を取りながら立案をしている。	・職員が主体的にアイデアを出し合える環境作りをしていく。 ・気持ちが悪くならないよう前回の児童の行動を把握することで、未然に防ぐ工夫を次回から取り入れるようになっている。その為には、「気づき」をデータファイルに記録している。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	・セラピストが毎回同じにならないよう複数の児童が支援している ・前のプログラムを見直したり、前回の担当職員に聞くようになっている。 ・チーム全体でプログラムの意図を共有しながら、常にアップデートしていく姿勢を持ち、支援へ活かしている。	・セラピストのジャッジが各々異なることができないよう、研修で学んだ内容の対応を徹底していく。 ・発達段階を基に様々なプログラムを実行し、その段階によってはプログラムの見直しを行う。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9	0	・保護者様からの聞き取り(生活の様子や園生活での他児との関わり)から、活動の組み合わせを考案して実行している。 ・小集団活動では感覚統合やソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れ、個別活動は個々に発達段階に応じて、標準化された活動計画を作成している。	・職員が主体的にアイデアを出し合える環境作りをしていく。 ・年少、年中、年長まで個別活動や集団活動の内容は異なるが、異年齢の児童の活動に合わせて個別、集団活動の支援も行う。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	0	・毎朝朝礼の際に確認を行っている。 ・朝用セザリハットに入っている人に入念に内容を適宜確認して、その日の支援内容を確認している。 ・固定された職員を担当、配置することはせず、職員それぞれの視点から児童の支援に入り、その都度の共有をしていく環境作りをしている。 ・支援前に担当した職員が次の担当職員に引き継ぎをする。または次担当する職員が前の担当職員に聞く。必要な時には朝礼時にも打ち合わせる。	・支援方法が職員によって違ってくるため、どのように児童に支援しようかというところまで具体的に伝える(記録)することで支援のクオリティを高くしていく。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有している	6	3	・支援後など、時間の合間に積極的に話し合いや報告を行なっている ・その日の児童の様子や申し送りに関しては、担当の方が業務日報に纏め、翌日の朝礼で共有されます。 ・セラピーの詳細なデータはセラピーノートやデータシートなど専用のフォームで確認できるようにしている。	・帰宅時間が決まっているパート職員はその日うちに報告できない場合もあるが、重要事項に関しては朝礼の報告の徹底をしていく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	・誰が見ても分かりやすいデータの残りの意図づけをして、スムーズに支援に入れる環境作りをしている。 ・記録では、セラピーノートに記入、個人的には行動記録として残す事があればスタッフ間で情報交換し業務日報に記入している。 ・また、支援時どのような反応や行動だったのかを必要に応じて記録している。	・職員間の共通認識、共通理解の底上げを目指す。 ・記録の取り方は誰が見ても伝わりやすいように、評価シートに具体的に記していくようにする。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9	0	・事業所内、ご家庭、通われている園等、児童の様子を聞き取りを行い、判断している。 ・職員へのヒアリングをベースにカンファレンスを実施して、支援計画の見直しの必要性を保護者と相談の上で判断している。	・モニタリング時に全職員からお子様についての課題や支援内容の意見を記してもらい、児発管が取り纏めを行なうことで、より質の高い支援計画を効率よく立てることができる。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	6	3	・まだサービス担当者会議には未参加だが、それぞれのお子様の状況把握に日々務め、いつでも参加出来る準備を整えている。 相談支援事業所からの連絡により児童もしくは管理者が対象児童についての情報共有を行っている。	サービス担当者会議が実施される際に、一つのファイルを持参すれば説明できるように情報の整理を日頃から行なっておく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	1	・お子様が置かれている環境等を十分に把握し、必要があれば関係各機関への引き続きを率先して行なっている。 ・児童の様子を知り、必要に応じて関係機関と連絡を取っている。情報を得ることで、今後の対応の仕方等を検討出来るようにしている。 ・各関係機関へのご挨拶を行い、弊所での取り組みをお伝えする事で連携体制を整えている。	・定期的なお伺いをすることで、より密な情報交換を行えるようにする。 ・対応した職員は翌日以降、対応した職員が休みの場合でも、その日の出勤者が対応にあたるように備えておく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	6	・該当児童ができた際に動き出せるように要準備。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	2	7	・該当児童ができた際に動き出せるように要準備。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	2	・移行支援についてはまだ未実施だが御要望、必要性があれば積極的に取り組んでいく。 ・事業所での支援方法を、集団生活の中で行える支援に置き換え提案する。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	7	・移行支援についてはまだ未実施だが御要望、必要性があれば積極的に取り組んでいく。	・まだ開所して1年未満の為、年度を跨ぐ支援期間が無いが、今後はソーシャルセラーを絡めて検討していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7	2	・お子様の置かれている環境等を十分に把握し、必要があれば関係各機関への情報の引継ぎを率先して行っている。 川口市の児童発達支援事業所連絡会への参加や、川口市から提供される研修情報を社内に展開し、都合が合う職員に受講して頂いている。	・連携対応出来る人員を増やし、更にきめ細やかなケアを目指す。 ・オンラインの研修は便利だが、タイミングが合わないことも多いので、アーカイブ配信もして頂けるよう要交渉。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	7	・現時点ではまだ未実施だがSNSを通じたコミュニティがある。 ・近隣の園を利用している児童がいる場合には当方より園を訪問して、障害のない子どもと活動する機会を創出している。 また、見学にご兄弟等いらした際には出来る限り活動を一緒にできるか促している為、類似する環境は提供できている。	・障害のない子どもと積極的に関わり合いをもつ機会が難しいが、イベントなどをこなして地域の児童も誘致できるか検討。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	8	・今年も川口市の「児童発達支援事業所連絡会」に積極的に参加して他事業所と当業界に関する情報共有と理解を深めています。	参加可能なものがあるか引き続き検討していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	9	0	・保護者様お迎え時のフード/バックの時間ではご家庭や園など様子を出来る限り伺い、支援時のお子様の様子と照らし合わせながら保護者様にわかりやすくお伝えしていく意識を全体で共有している。	・書面での配布で分かりやすく伝えられるもの1つの手段でもある。 ・まだコミュニケーションが取れていない併用している施設での情報は少ないので、如何に児童を軸にコミュニケーションを図っていくかが課題。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	7	2	・園への訪問依頼や面談時、通所時のご相談を頂けて頂いているので、トレーニングとまではいきませんが、一定の家族支援は提供できていると思います。 ・保護者様がご家庭でも取り組みやすい内容から入っていくよう、様々な方法を提示している。	・職員達の環境が整い次第は実施する予定。そのためには職員全体の知識、スキルの上昇を目指す。 ・ペアレントトレーニングの存在を知らない保護者様もいるので、積極的に案内してもよいのではとも思う。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	0	・契約時にはしっかりと理解頂けるよう、都度相互確認をしながらお伝えしている。 ・保護者様に伝わりやすいよう説明している。 ・ご契約時にご説明させて頂いておりますが、保護者様が来所した際に参照しやすい場所に掲示、保管しております。	・限られた時間内で、且つ時間の経過とともに忘れてしまう可能性がある中で、引き続き目の付きやすい場所には掲示しておき、面談時にも目を通して頂けるようにしておくことも有効かと思われる。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9	0	・ガイドラインに沿った支援計画、一連の流れでの作成している。 ・当事業所独自の計画書を作成した後、支援計画書を作成している。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	・お迎え時のフード/バック時に行なっている。 ・お子様や、ご家族様の困り事に寄り添う姿勢を常にもち、必要であれば専門的な内容等は都度本部の専門支援に精通する職員に助言を頂き、支援内容を精査しながら御家族様にも共有している。 ・格闘にも保護者様からの相談内容を伝え、より保護者様に寄り添える支援方法をお伝えしている。 ・相談に応じて通所している幼稚園に訪問したり、電話やSNS、面談を通じてヒアリングをしている。 内容によっては、行政の機関や本部の専門家などの第三者の意見も取り入れて対応している。	・まだ相談頂けていない潜在的なニーズは今回のアンケートの結果も含めて検討していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	9	・オンラインも視野にいれた環境を整備している。	・時間帯の異なる保護者連をどのように保護者会等に招くかが課題だが、オンラインも視野に入れ、今後のニーズに対応していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	0	・お迎え時、ご家族様の困り事に寄り添う姿勢を常にもち、必要であれば専門的な内容等は都度本部の専門支援に精通する職員に助言を頂き、支援内容を精査しながら御家族様にも共有している。 ・毎日、保護者への申し送りをする際、保護者からの相談も聞き入れられているが、電話やSNSを通じて、迅速に対応できる体制づくりをしている。	・どの職員でも対応できるように現場スタッフも含め、相談の場面に同席していくことで組織全体での対応を目指す。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	0	・都度職員全体にも共有し、専門的な支援内容も保護者様にわかりやすいように毎月のお便りやSNSで発信している。 ・月次のお便りでは、活動の様子他に、療育内容やその取り組みの目的をお伝えし、保護者様の日々の生活にも役立つようにしている。 ・日々の連絡体制に関しては、SNSの導入により、24時間の連絡体制は取れている。また、毎月のお便り以外に、文字だけでは伝わりにくい活動の様子を写真サービスの導入により実現している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9	0	・顧客情報の紙面などのハード媒体は鍵付き書庫に保管し、データなどのソフト媒体に関しては、大半のクラウドアプリで保存することで紛失も防いでおります。 ・全職員と個人情報保護の同意書を個別に締結しています。 ・写真サービスはプライバシーマークを取得しているサービスを採用しております。	・書類の種類や位置の共通認識の徹底。 ・全職員に対して入職時に個人情報保護の同意書を取っておりますが、保管場所等、教える人によって異なる認識の無いように整理整頓を習慣化し、且つミスを防ぐよう可視化していく。 ・個人情報となるものを提示する際、事前に確認を取る等して気をつけて扱っていく。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	・児童に対しては、視覚化する事で意思疎通や情報伝達のための環境をつくることで工夫している。保護者に対しては、営業時間外であっても、SNSの導入によって、外国人の保護者も含めてコミュニケーションが取りやすいように配慮しております。 ・お子様や、ご家族様の困り事に寄り添う姿勢を常にもち、必要であれば専門的な内容等は都度本部の専門支援に精通する職員に助言を頂き、支援内容を精査しながら御家族様にも共有している。	・通所される児童によって、環境を変えていくことが必要で常に改善が求められる為、引き続き、定期的な打合せで環境を含めた改善案を提供していく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	8	・外部にも発信できるSNSの環境整備をおこなった。	・現時点ではまだ未実施だが御要望、必要性があれば、イベントを通じて地域住民を招待することを考察していく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9	0	<ul style="list-style-type: none"> 各種対応マニュアルの所在場所等保護者様が目につきやすい場所へ張り紙のご案内をしている。 防災訓練は月毎に工夫し行っている(紙芝居から実践へ) 定期的に訓練を実施し、適宜マニュアル等見直しを行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対応の仕方も職員間で確認し、素早く対応出来るようにしておく。また、職員間でも未だ調整ができていない感染症対策(ノロウイルス等)を想定した訓練を実施する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	0	<ul style="list-style-type: none"> しっかり役割分担をたううえで、定期的に避難訓練を行なっている。 参加のお子様の発達段階や生活環境を加味した上で訓練計画を立てている。 緊急第一避難場所の他、避難場所を3箇所設定し、非常災害時の避難ルートを決めている。 必須とされていないが、救命講習を受講している職員も配置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加児童の偏りが無いように計画をたてていく。 かならず全児童が避難訓練の目的に当たるように調整することは難しいかと思われるので、曜日ごとに同条件の避難訓練のシミュレーションを実施する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	0	<ul style="list-style-type: none"> ご契約時に必ず服用しているお薬や医療機関等のヒアリングを行っており書面(フェースシート・アセスメントツール)で記録を残してある。 弊社の職員が医療行為として認められる行為や服薬に関することに対応する際には「服薬介助依頼書」を用意して対応に控えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の服薬やアレルギーなど、6か月毎の面談時に前回のフェイスシートの情報を印刷して、変更点があれば訂正を入れて頂くことで漏れを防ぐ。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	3	<ul style="list-style-type: none"> いまのところ食事を取る機会が無い為、食物アレルギーに関する対応は求められないが、服用(坐布するものも含む)なども医師の意見が必要な場合には記入して頂く様式「服薬介助依頼書」を用意している。 	<ul style="list-style-type: none"> いまのところ該当者はいないが、契約時のお聞き取りの際にヒアリングはしている。 上記、同様に6か月毎の面談時に前回のフェイスシートの内容を印刷し、変更点があれば訂正を入れてくださいと依頼しておくことで漏れがなく対応できる。また、書面から服薬の量が変わっていないか児童の様子から必要に応じて保護者に確認を取るよう心がける。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	<ul style="list-style-type: none"> 朝礼で報告し記入してあるファイルを確認している 毎日日報担当者が、ヒヤリの有無を聞くようにしている 職員同士で声をかけ合い、ヒヤリハットをあげるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> 活動中、ヒヤリを意識した動き、また発生時の対応、職員全体の共通認識、理解の底上げを目指す。 児童、職員の動きは様々なので、ヒヤリハット事例の解決策に関しては、個々の対策を引き出していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	<ul style="list-style-type: none"> 入社してすぐに動画を視聴し、研修報告書を記入して頂いている。 年に1回研修の機会を確保し、職員間での共通認識を持てるよう実施している。 児童や保護者様のご様子や言動に気をつけて観察し、必要に応じて身体にも目を配るようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全体の認識の底上げを目指す。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9	0	<ul style="list-style-type: none"> 契約時に虐待についての内容と同時に伝えていく。 身体拘束が必要にならないよう環境設定に気をつけると共に対応策を用意している。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全体の認識の底上げを目指す。 児童の前後の行動を把握し、必要となる支援に気づき取り組んでいく。